

令和5年度関東高等学校男子バスケットボール大会
兼 第77回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会
＜Bブロック準決勝＞

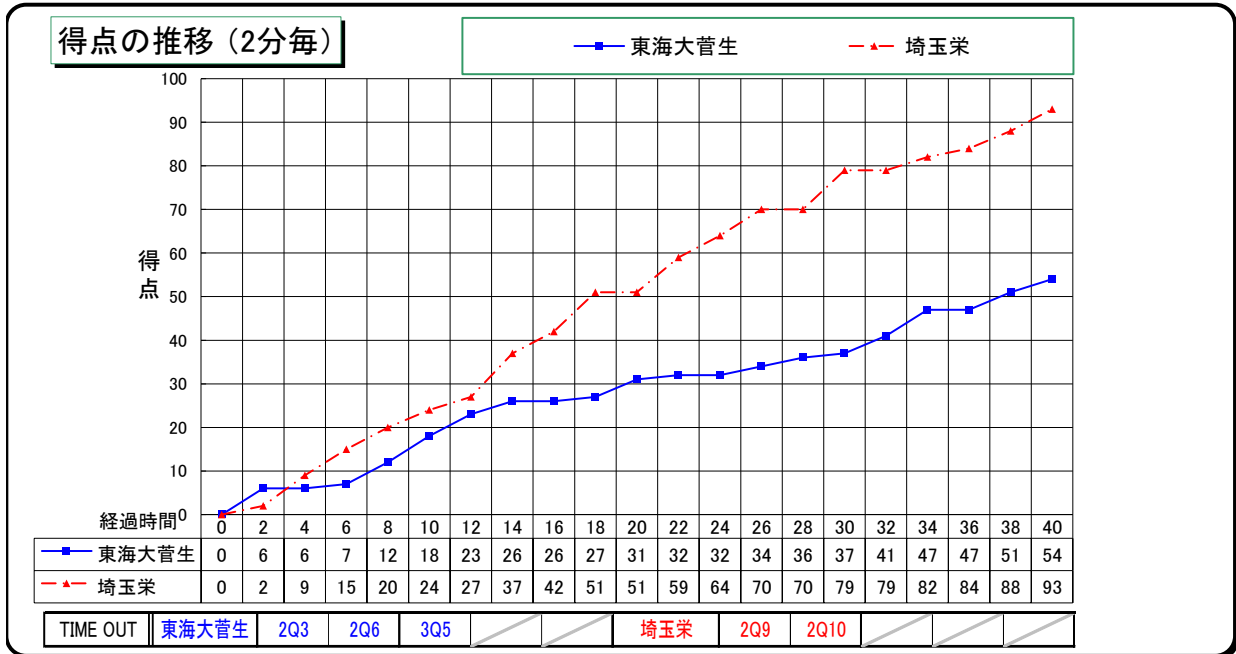
令和5年6月4日(日)	アダストリアみとアリーナ	大会2日目	Cコート	第1試合 9:30～												
<チームA> 東海大菅生 東京		54 <table border="0"> <tr><td>18</td><td>1Q</td><td>24</td></tr> <tr><td>13</td><td>2Q</td><td>27</td></tr> <tr><td>6</td><td>3Q</td><td>28</td></tr> <tr><td>17</td><td>4Q</td><td>14</td></tr> </table>	18	1Q	24	13	2Q	27	6	3Q	28	17	4Q	14	93	<チームB> 埼玉栄 埼玉
18	1Q	24														
13	2Q	27														
6	3Q	28														
17	4Q	14														

主審: 内野 翔太(群馬) 第1副審: 林原 潤(千葉) 第2副審: 大和田 雅人(茨城)

S	No	選手名	得点	3P		2P		FT		F	リバウンド		アシスト
				成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	
◎	2	小川 颯真	7		4	2	8	3	6	1		2	2
◎	3	伏見 大翔	7	2	7		1	1	2			2	1
○	5	山口 瑛人	6			3	4		1	2			2
◎	7	佐藤 晴野	1		4		7	1	2	3	1	3	
○	9	杉崎 陽人	2			1	2			1			
○	10	末吉 真綺央					2					1	
○	11	嶋田 悟	6	1	1	1	6	1	2	1	4	2	
○	13	木下 輝夢					1						1
○	14	曹 寿寛					1					1	
○	15	佐藤 光希	3			1	4	1	2	2	1	2	
○	17	大木 夏偉	2			1	1						
○	18	山崎 優雅					1		2	2		1	
○	20	中島 瑛優	2		1		1	2	2				1
◎	34	鎌田 殊吏葉	13		1	4	17	5	9	1	2	8	
◎	46	西辻 慧吾	5		1	2	6	1	2		2	3	
コーチ 三村 龍太郎													
合計			54	3	19	15	62	15	30	13	10	25	7

S	No	選手名	得点	3P		2P		FT		F	リバウンド		アシスト
				成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	
○	0	白濱 瑛良	7	1	5	2	3			3		3	
○	1	後藤 悠大	2		2	1	3			2		1	1
○	3	鹿 夏哉人					2					1	1
○	5	伊東 隼人	7	1	1	2	3		2	2	1	2	1
○	7	齋藤 壮悟	3			1	3	1	2				
◎	8	眞壁 啓太	7	1	3	2	4			3	1	3	3
○	17	松本 昂也	2		1	1	3					3	
◎	20	横島 星七	10	1	4	3	10	1	2	1			1
○	23	岡田 悠希	9	1	1	3	5				3	6	1
○	25	萩原 千明貴	2			1	4			1	1	2	
○	26	小原 強					2					2	1
◎	34	孫 啓剣	8			4	4			3	1	4	1
○	35	平川 光流	11	1	2	4	5				1	1	3
◎	47	椎名 勇翔	13	3	7	2	2			1	2	2	2
◎	77	中谷 月陽	12			5	9	2	2	1		2	
コーチ 伊藤 裕一													
合計			93	9	26	31	62	4	8	17	10	32	15

◎:スターター / ○:出場 / 3P:3点シュート / 2P:2点シュート / FT:フリースロー / F:パーソナルファウル



戦評 記入者: 谷中 頌太

令和5年度関東高等学校男子Bブロック準決勝、東海大菅生(以下、菅生)と埼玉栄の試合。

第1Q、両チームともにハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート。埼玉栄は#34孫の高さの利を活かしてポストアップやハイピックからオフェンスを展開する。#34孫がオフェンスリバウンドにも絡み、堅実にゴール下のシュートを決める。菅生は#34鎌田のカットインや#46西辻のドライブインで積極的にリングに向かい、フリースローを獲得。埼玉栄の#34孫が2回目のファールで、一度ベンチに下がると、菅生はより効果的にドライブインを狙えるようになり、点の取り合いとなった。埼玉栄は#23岡田がスクリーナーとなりハイピックを継続し、18-24で第1Q終了。

第2Q、埼玉栄は2-3ゾーンを組みディフェンスに変化をつける。菅生は#11嶋田が3Pを決めたが、その後が続かず、オフェンスの流れを掴めない。埼玉栄はブロックショットから速攻がつながり、ディフェンスが機能し始める。残り時間7分に菅生がタイムアウトをとるが、その後も埼玉栄の強度の高いディフェンスに苦しみシュートの確率が上がらない。埼玉栄は走る展開から#77中谷が連続して得点したこともあり、オフェンスも好調を維持した。菅生は2-3ゾーンや2-2-1ゾーンプレスを仕掛け局面の打開を図るが点差は開き、31-51で第2Q終了。

第3Q、埼玉栄の#8眞壁、#20横島が連続して3Pを決め後半のスタートダッシュに成功する。対する菅生はオールコートでプレッシャーをかける局面をつくり、ディフェンスから展開を変えようとする。しかし、シュートを決めきることができず、埼玉栄のペースを崩せない。埼玉栄はメンバーを入れ替えながらもディフェンスの激しさを失わず、走る展開から得点を量産し、大量リードを奪った。37-79で第3Q終了。

第4Q、菅生が意地をみせ、#2小川、#46西辻が連続してドライブインを成功させる。ディフェンスでも#7佐藤のブロックショットがあり、開始約3分30秒間を無失点に抑える。その後も菅生は#5山口がドライブインを決めきり、#15佐藤がゴール下のシュートを押し込むなど奮闘を見せる。埼玉栄も#5伊藤がタフショットを沈め、#0白濱が速攻のレイアップを決めて得点し、第4Qは両者互角の展開になった。最終スコア54-93で埼玉栄が勝利した。